

歴史の1ページ

校長 八木澤 龍馬

学校の西門を出て坂道を上った先に、庚申塔が建っています。塔には屋根があって、直接降る雨から守られ、いつもお供え物があがっています。側面には、国の平穩を願う言葉と「大谷口村 細野講中」の文字、そして、「寛政元己酉年八月吉日」という日付が刻まれていました。

寛政元年（西暦1789年）は、江戸幕府の老中、田沼意次の政権が終わり、松平定信による、寛政の改革（1787年）が始まっていました。そのころの東日本一帯は、異常低温と水害、浅間山の噴火（1783年）による「天明の飢饉」が起きています。食料が不足し、経済的にも不安な世の中だったはずですが、そういった時代に、細野のご先祖様たちが、村の安泰と豊作、皆の健康を願い、この庚申塔を建てたのかもしれませんが。それからの229年間、庚申塔は、これを大切に人々に祭られ、この土地を見守ってきたのでしょう。

さて、大谷口小学校は、開校45周年という節目の1年を終えようとしています。

昨年4月の入学式では、椅子に座ったとき、足がブランコになっていた1年生も、みんなしっかりと学校生活を送っています。4月、2年生になって、新しい1年生を迎え、お兄さんやお姉さんになれるのがとても楽しみ、と話してくれました。

各学年とも、運動会、文化祭などの大きな行事では、演技の準備、練習、発表を通して、それぞれの特色を十分に発揮してくれました。社会科見学や自然の教室、修学旅行などの校外学習では、実物を見たり触れたりして、社会のしくみを学び、自然を体験してきました。また、礼儀正しく、メリハリのある行動をしようと努力する姿勢が、たいへん立派でした。

授業、例えば社会科では、学習課題について、パソコンや資料、教科書を駆使して調べ、意見を聴き合い、成果を掲示物などにまとめて、みんなの前で発表するという、子どもたちが主体的に活動し、伝え合う学習方法が定着してきました。ていねいにレポートを書き、堂々と明瞭に話せる子どもたちが確実に増え、頼もしいです。1年間で、子どもたちは身長も伸び、たくさんのことを学んで、ほんとうに大きくなりました。

開校後の45年間は庚申塔の1/5ですが、この1年、本校も歴史の1ページをつづることができたと思います。新入生保護者説明会の日、保護者の方から、本校の卒業生だ、とうかがいました。保護者には、すでに、卒業生がたくさんいらっしゃいます。お孫さんが入学するという卒業生も、増えていくことでしょう。そうした皆様が地域の方々として、大切に思うような、みんなの大谷口小学校を、これからも目指しつづけてはなりませんね。

3月は、卒業式、修了式という大事な行事が控えていますが、ひとまず、今年度、大谷口小学校を大切にしてくださった皆様に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。